

令和5年度 射水市食育推進会議 会議録

日時 令和5年11月2日(木) 午後1時30分から3時

場所 射水市庁舎401会議室

出席者 射水市食育推進会議委員〔8名〕

姫野委員、尾上委員、筏井委員、尾山委員、金森委員、倉谷委員、犀藤委員、福田委員
射水市食育推進会議幹事会〔11名〕

小見福祉保健部長、轟福祉保健部次長、網政策推進課長、明野生活安全課長
市井環境課長、明保険年金課長、高岡子育て支援課長、政岡保健センター所長
佐野観光・定住課長、村中農林水産課長、星野学校教育課長

議 事

- (1) 射水市食育推進計画の進捗状況について(資料1を説明)
- (2) 射水市の食育関連事業の実施状況について(資料2を説明)
- (3) 健康づくりアンケート案(食育に関する項目)について(資料3を説明)

意見交換、質疑応答

【委員】

学校は給食を生きた教材と考えており、食育に活かすように努めている。栄養指導やマナーの指導だけでなく、故郷への感謝の気持ち、命に対する感謝の気持ち、SDGsという視点からも、給食の時間に目の前にある給食を使って指導したり、放送したりと食育の推進に努めている。特に射水の地場産食材が給食に使われた日は、教室で担任が「今日の小松菜、サクラマスは射水市のものだよ」等話をするにより、子供たちの食べ物への関心が高まる。また、家に帰って家族に話をする事で保護者の方の関心も高まり、大変有難い。

富山ブラックの枝豆をいただき、子供たちが「おいしい」と大変喜んで食べていた。枝豆の栽培活動を5年生が行っていることもあり、子供たちが大変関心を高めていた。農業体験も楽しさや大変さ、また目の前にある給食がどのようにして自分たちの前にあるかということ学ぶ機会となるため継続していただけると有難い。

朝食を食べない子がなかなか目標に達していない、食べている子が減っているというデータを見て、原因はわからないが、家庭への働きかけをしていく。

【会長】

射水市では多くの事業を実施しているが、どこまで周知しているのか。子育て中の方は子供を通して食に関心を持つ。お子さんがいらっしやらない方や、子育てが終わった方などは、時間ができて食を重視に考える方が多く、自分で育ててみたい、農園みたいなところに繋がりたいという声も結構聞く。射水市では市民農園など貸し出ししている農園はあるか。

【農林水産課】

下地区のパークゴルフ場の横の区画を市民農園に近い形で畑として貸し出ししている。それほど多くないため、常に全て借りられている。いろいろな人に農業に携わってもらい、自分で作

ったものを自分で食すということを日常でしていただきたい。他にも市民農園を検討しているが、家庭菜園を持っておられる方が多いので、そこはまた課題としていく。

【会長】

私も富山で市民農園を借りている。動機づけや、声をかけるきっかけにもなった。特にコロナ禍は、土に触ることで鬱にならないようにと、身近な方に声をかけるとたくさん来られた。

【委員】

青年会議所としては、毎年夏に射水市内の小学生4、5、6年生を対象としたキャンプなど青少年健全育成事業を行っている。その際、子供たちとカレーやバーベキューをして、あとで振り返ってもらう時間を作るが、料理が出来た、出来なかったという観点でしか測っておらず、食品ロスや、野菜やお肉を作った人たちの背景、その命をいただいているという教育の観点があまりなかった。

青年会議所としては子供たちの心の醸成を意識した事業に毎年取り組んでいるが、この機会に市と食育の観点から心の醸成に繋がるような事業をもっと連携して行いたい。また青年会議所に持ち帰りフィードバックさせていただきたい。

【会長】

とやま食の匠とは何か。

【農林水産課】

富山県が、郷土料理や野菜を上手に育てる方を認定し、その方に野菜作りのノウハウや、料理のノウハウを伝えていただく取り組み。尾山委員も、白えびのかき揚げの匠ということで、認証いただいている。白エビはブランド力がつき、このような取り組みを引き続き継続して地域の食材をきちんと食卓に使うということで、皆さんに地元の農林水産物食べていただきたい。

【委員】

白エビは多くの方に食べてほしいが、たくさん獲れないため高くなる。殻付きのまま買えば安いので、唐揚げにしたり、玉ねぎや人参と白エビの殻付きを混ぜてかき揚げを楽しんでいただきたい。

カニ給食をコロナの流行時に実施してあげられなかったのは本当に残念に思う。皆さんのおかげで長く細く続けられていることに私たちも感謝している。皆さんに美味しく食べて喜んでいただきたいと思っているので、どんな協力でもしていく。

【農林水産課】

富山県で行っている白エビの漁が、唯一水産水揚げ高が期待される漁として言われているが、特に射水市の白エビの漁は環境に配慮し、漁師たちが獲りすぎないということに取り組んでいる漁としても、環境教育の部分で子供たちをはじめ色々な人にPRできる。学校給食でサクラマス話題も出ていたが、サクラマスは川の魚だが一度海に出て、もう一度川に帰ってくる。今は庄川にはほとんど遡上してこないと言われ、養殖するしかない。将来的に海の魚が取れなくなると言われ始めていることも含め、そういう環境やSDGs、農業や水産業で作り育てることの大事さもしっかり伝えていきたい。

【委員】

資料に基づき、小さい子どもから高齢者まで素晴らしい計画で実行していただいていることを本当に感謝している。食改としては、これから心配な災害を次回から取り入れていただきたい。避難所での災害食など計画に含めてほしい。

【事務局】

災害時の食事については、今年度保健センターは食生活改善推進員の研修会で取り上げ、地域で伝達講習会として広めていただいている。国の第4次食育推進基本計画でも災害についての観点が入っており、今後もそれを念頭に置きながら進めていきたい。

【委員】

給食でも、養殖の射水サクラマスを食べることが、SDGsの食料不足に関わるという話や、白エビを取り過ぎないように漁をしているという話も子供たちに伝えられる。白エビの調理についてもプロの方から話を聞けると生かせる部分がたくさんある。

【委員】

コロナ前は、学校へ出向きそのような指導をしてきたが、ここ数年は学校に行くことができなかった。今後もまた機会があれば若い人たちを育てたい。白エビの料理方法や、四季折々の魚を知って喜んでもらいたい。

【会長】

サクラマスの話も出たが、放流や養殖など小学校で行事を行われていると思うが。

【農林水産課】

地方創生の国の交付金があり、それを使って養殖事業を立ち上げようということがスタートだった。堀岡養殖でヒラメやフグをしていたところからスタートした事業だが、射水でとった卵でふ化させ、射水で孵し、射水で大きくして射水で食べるということを理想に掲げて10数年ぐらい取り組んでいる。山から流れてくる水が流れる川、海、また戻ってくるというところの、サクラマスの一生や、サクラマスはヤマメという魚が海に出るとサクラマスになるといったような話をしながら、「海が綺麗であること」、「川が綺麗であること」、「山がしっかりしていること」というようなことを地方創生の事業、一連の養殖事業と絡めて子供たちと一緒に取り組んできたというのは数年前、事業として取り組んでいた。

【委員】

6のページの「みんな元気教室」のフレイル度チェックの意味は。

【保険年金課】

フレイル度チェックは「やせすぎで、自分で自分の体を支えられない」や、精神的なもののチェックを行っているが、どちらかというはやせすぎの高齢者を増やさないという取組をしている。

【委員】

実施予定では10か所となっているが、この10ヶ所はどのような地域か。

【保険年金課】

基本的には地域振興会単位でしている。4年間で27地域振興会全て回り、昨年が2巡目になった。特にその中でも多く集まっている地域、昨年は特に大門地区で10回、10地区行った。

【委員】

地域によって射水市内でも生活様式が異なり、海側と山側となれば、生活様式が多少違うと思う。高齢化していても、おそらくそういう生活様式は従来とずっと同じような形だと思う。このチェックをしたときに痩せ方などの地域差がデータとして出ないか。

【保険年金課】

データとして出ると思っている。この訪問は正職員の保健師、年度雇用の職員管理栄養士の2人が出向しているが、食事内容等伺いながら、その方に適した食生活や運動について指導している。1年間で回れる範囲が10か所程度だろうと思う。

【会長】

塩分摂取量は、現在どの程度か。富山県、その中でも射水市は、塩分摂取量の多い場所の代表として論文などに書かれることがある。

【事務局】

配布資料の富山県の塩分チェック表の裏面に富山県民の食塩摂取量のデータがある。富山県民の約8割が目標量を上回っているとなっている。男性の目標値は7.5g、女性が6.5gになっており、目標値以上摂っている方は、男性81.2%、女性80.5%でかなり多い。前回とったアンケートでは、特に働き盛り世代の男性の「麺類の汁まで全部飲む人の割合」が多いというデータや、高齢になるほど「漬物を食べる頻度」が高くなるというデータもあり、調味料をかけるという生活習慣もあるかと思うが、そういったところから多くなっていると考えられる。以前に比べれば全国的にも徐々に少なくなっているが、厚生労働省が設定する塩分目標量にはなかなか届かない状況である。

【委員】

アンケートの結果は市民に公表されるか。

【事務局】

アンケートの集計結果を食育推進計画などの案に反映させ、計画を立てる予定としている。必要な部分は公表し、食育推進会議においても、結果についてお知らせする。

【会長】

アンケートについては、比較のためほぼこれまでと変えていないということで、結果が出次第、公表できることは公表し、射水市健康増進プランに役立てていければと思う。